

国際旅客便の回復率、7割突破

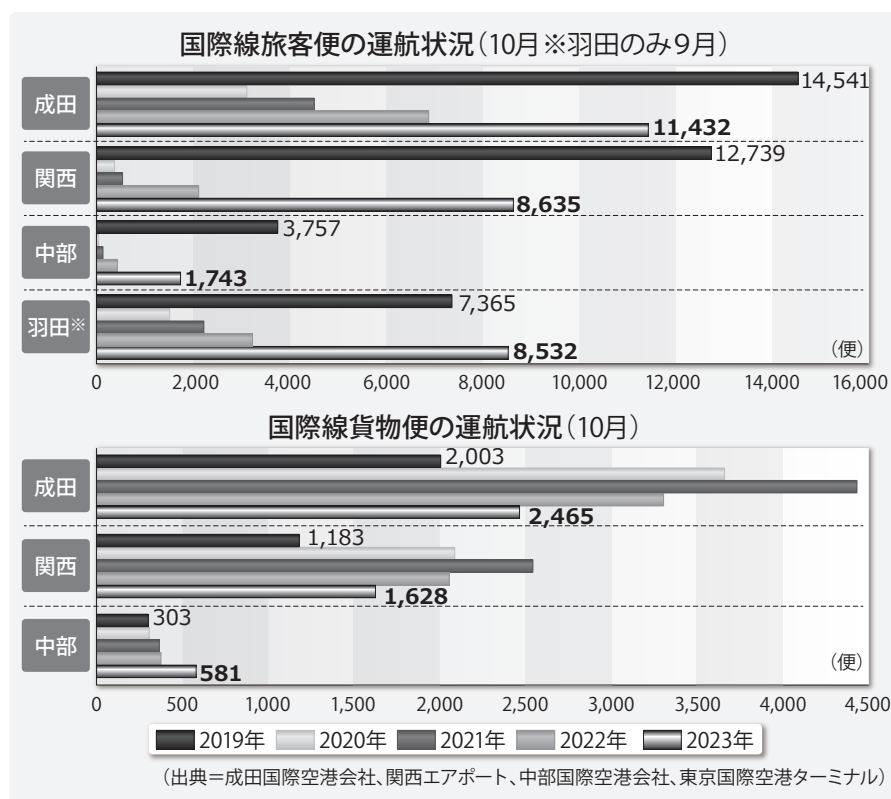
■主要空港の運航便数<10月>

成田、関西、中部の国内主要3空港における2023年10月の国際線旅客便数の回復率は、新型コロナウイルス禍前の19年同月比で70.3%だった。9月から2.9ポイント上昇。国際線旅客便の運航便数は計2万1810便と、9月から1293便増えた。

10月実績は成田国際空港会社と関西エアポート、中部国際空港会社が11月末までに発表したもの。羽田空港は東京国際空港ターミナルが11月末までに発表した9月実績が最新。

10月の国際線旅客便の回復率は、19年同月比で、成田が78.6%、関西が67.8%、中部が46.4%。9月から成田が7.4ポイント、中部が4.8ポイント上昇した一方で、関西は2.9ポイント下がった。関西は2019年9月に1万1436便と同年8月から1000便近く減らしていたが、今年9月は8月から水準を落とさなかったため7割の回復率に一時的に到達していた。成田はこれまで7割強の回復率で頭打ち感があったが、10月に入って上昇。成田も19年9月から同年10月にかけて700便近く減少していた一方で、今年は同期間に1000便増加したことで回復率が上昇した。9月の羽田は19年同月比で115.8%の回復率で、コロナ前を上回っている。

10月の国際線旅客便数は前年同月比で、成田が66.0%増の1万14



32便、関西が4.1倍の8635便、中部が4.0倍の1743便。3空港の合計便数に占める成田の割合は52.4%と、9月から0.6ポイント下がった。9月の羽田の運航便数は、8月から192便減って前年同月比2.6倍の8532便だった。

国際線貨物便は前年同月比で、成田が25.5%減の2465便、関西が20.9%減の1628便、中部が54.5%増の581便。3空港ともに依然としてコロナ前の19年同月よりも高い水準を維持している。